

地域活動職員のつぶやき

地域活動職員の谷口です。大原自治振興会で研修させていただくようになって6か月ほどたちました。当初は何か学んで持って帰らなければ！と肩ひじ張っていたのですが、大原会長はじめ役員の方々の皆様のおかげでのびのびさせていただいています。最近は親戚のおじちゃんおばちゃんと喋っているような気分になるときもあります。

とはいえ研修なので、会議中は真面目にしています。今は月に数回、運営会議や勉強会、円卓会議に参加させていただいていますので、この半年を振り返って、大原自治振興会について思うことをお話ししたいと思います。

まず驚いたのはデジタル化が進んでいること。新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに令和2年度の当初からWEB会議を導入され、現在では運営会議と勉強会は毎回zoomで開催されています。勉強会は録画され、YouTubeで配信もされています。各部会やプロジェクトチームの会議でも、どんどんWEB会議が導入されています。機器の操作など最初のハードルは高くなりますが慣れれば難しくはありませんし、仕事が忙しい方や子育て・介護で家を離れられない方でも気軽に参加していただけます。今後、地域活動の担い手のすそ野を広げていくために、WEB会議は必須になってくるのだと思います。

大原自治振興会のもう一つの特徴は、「対面」も重視されていること。先ほどのデジタル化とは逆の話になりますが、やはり直接顔を合わせて話すことでしか得られない「空気感」のようなものもあると思います。大原自治振興会では防災や見守りといったテーマごとに関係する住民や団体による円卓会議を開催されており、これはWEB会議ではなく対面です。先日の防災円卓会議では、各区の区長さんや民生委員さん、自主防災組織の方などが参加され、大久保・櫛野・神の事例発表の後、各区で意見交換を行いました。区によって事情が異なるので、よその事例をそのまま取り込めるわけではありませんが、やはり同じ地域でがんばっている区があり、そのお話を直接お聞きできたことが他の区の方々の刺激になっているように感じました。会議後に、事例発表された区の取組について勉強会をされた区もあったようで、地域の防災力の底上げにつながったのではないかと思います。

自治振興会に期待される役割は地域内の様々な主体をつなぐプラットフォームだといいますが、大原自治振興会はWEBと対面を使い分け、それを実現されていると感じます。もちろんうまくいっていることばかりではないというのもわかってきましたが、試行錯誤しながら住みよい地域を目指して活動される自治振興会と共に行政職員として何ができるか考えつつ、残りの研修期間を過ごしたいと思います。(谷口理恵)



大原の皆さま、こんにちは地域活動職員の中井です。お世話になり、早いもので半年が過ぎました。毎月の運営会議や勉強会、そして円卓会議などに参加させていただき、大原自治振興会の取り組みが“少し”見えてきたと思います。“少し”と言って、遠慮しているのではなく、11月中旬に開かれた市長懇話会で、そう思ったのです。懇話会に参加し、大原自治振興会の歩みを知る機会となり、私に関わらずと前からの活動や多くの人の思いが溢れていて、「ほんの一部しか関わってないなあ」とあらためて気がつきました。

大原自治振興会への参加のありようは多彩です。私のように地域活動職員として参加することや、月に1回ごみ拾いをするとか、まき割りなどもあると聞きました。そして、皆さまのお手元にあります、広報誌「おおはら」を読むことも、ひとつの参加の形だと思えます。

大原自治振興会には参加するメニューがいくつもあって、それでいて寛容です。大原に住んでさえいれば、それだけで大原自治振興会のメンバーだと認識できる雰囲気があります(私は綾野に住んでいますので、居住地さえ問わないのかも!)。と言いますのも、自治振興会の事業に何も関与していないとか、区入りしていないとか、ある種の後ろめたさを感じさせるような雰囲気はなく、すべての地域住民を広く対象にして、多様なつながりをつくってほしいという思いが感じられるからです。

ゆるやかに、興味のおもむくままに参加できることに感謝しながらも、このような土壌をつくりあげ、主体的に関わり続けられている大原自治振興会の役員・専門部会委員の皆さまに頭が下がる思いです。

ここ大原は、着実にそのプロセスを積みあげているように思います。しっかりと受けとめる人、一緒になって考える人がたくさんいらっしゃいます。活動への参加希望でも、広報を読んだ感想でも、抱えている困りごとでも、何かございましたら大原自治振興会に問い合わせしてみてください。きっと、新たな気づきにつながると思います。(中井浩喜)



【編集後記】

自治振興会においては、緊急事態宣言中に解除後の取組をWEB会議で企画準備していたので、解除後(10月1日以降)速やかに様々な取組を行うことができました。また、コミュニケーションツールとしてfacebook、LINE、YouTubeなどICT活用がコロナのおかげで促進できました。

発行・問合せ：大原自治振興会
〒520-3435 甲賀市甲賀町相模173-1
TEL&FAX:0748-88-3111
e-mail: ohara10ku@gmail.com
編集：大原自治振興会 広報プロジェクト
発行月：令和3年12月

大原自治振興会便り 広報誌「おおはら」

News Letter Oohara

VOL.
40
R3.12



Content

02 プロジェクト、部会、関連組織の取り組み

06 地域活動職員のつぶやき

櫛野川砂防ダム
【2021.11.21】
Photo 安井正宜

全国植樹祭カウントダウン200日前イベント

令和4年6月5日に開催する第72回全国植樹祭まで残り200日を記念して、「カウントダウン200日前イベント」が、11月27日、鹿深夢の森で開催されました。

滋賀県で47年ぶりに開催する第72回全国植樹祭まではあとわずかです。主会場は鹿深夢の森です。大原地域みんなでもりあげていきましょう！

トークセッション「びわ湖水源の森～やまは健康しがのフロンティア～」の三日月知事とのぶっちゃけトークには、大原地域に拠点のある甲賀木の駅運営委員会の大原久和さんがゲストスピーカーとして登壇。

- ① ぶっちゃけトーク 甲賀木の駅運営委員会の大原久和さん
- ② 山に木を植えよう 岩永市長あいさつ
- ③ イベントチラシ

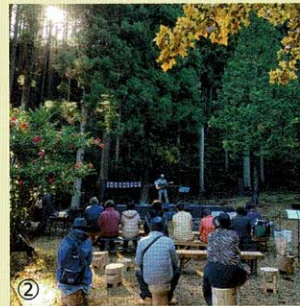


やまの健康：「やま」でつながる1日 くぬぎのもりライブ

やまと楽しみながらつながる取組として、「やまでつながる1日」を櫛野川砂防ダムの周辺を会場に、11月28日に開催しました

当日は、野外での音楽イベント「くぬぎのもりライブ」。なんと13組の4時間半のライブ演奏。健康促進アプリBIWA-TEKUを活用した「砂防ダム周回トレッキング」。森の木々を活用した「プレパーク」遊び場。昼食や飲み物を提供する「キッチンカー」で、多くの人がやまと楽しみながらつながることができました。

- ① 会場から望む櫛野川砂防ダムの風景
- ② くぬぎのもりライブの様子
- ③ イベントチラシ



地域環境部：かふか夢の森 環境美化活動(毎月第1日曜8:00-9:00)

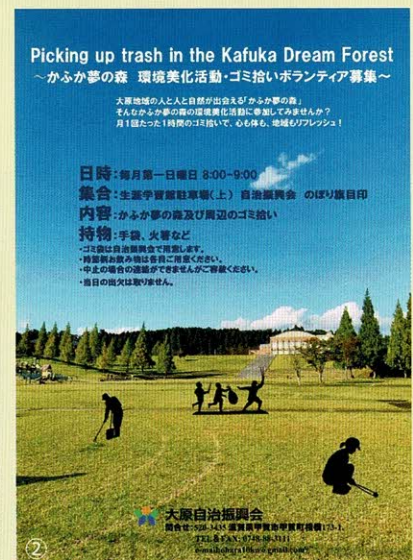
第72回全国植樹祭に向けて、毎月第1日曜日8時から9時までかふか夢の森 環境美化活動・ゴミ拾いを実施しています。

大原地域の人と人と自然が出会える「かふか夢の森」そんなかふか夢の森の環境美化活動に参加してみませんか？

月1回たった1時間のゴミ拾いで、心も体も、地域もリフレッシュ！

ボランティアに関する問合せ
大原自治振興会 事務局
TEL：0748-88-3111
E-mail：ohara10ku@gmail.com

- ① 10月3日のボランティアの皆さん
- ② ボランティア募集のチラシ



まちづくり会議：市長座談会

第4回 大原自治振興会 市長と語ろう！ 市民の声でつくる「甲賀のまちづくり」座談会を、11月15日に行いました。

まず、「これまでの地域の総働に向けてのまちづくりの報告」として、これまで市長との座談会を契機に始めた1)防災、2)見守り、3)交通弱者対策、4)里山、5)子ども・子育て、6)歴史文化・観光交流の円卓会議のメンバー、経過、成果を報告しました。

その後、「今後の総働のまちづくりについての提案と意見交換」ということで、次の3点について大原自治振興会から提案し、市長とその提案について意見交換を行い、市長から以下の旨の発言を受けました。

一点目は、自治振興会のエリアについて、小学校区か旧甲賀町エリア、どちらが最適の検討を、協働で開始していきます。

二点目は、大原自治振興会の事務所を、住民や福祉、子育て、生涯学習、図書館が集約され、住民との接点が多いかふか生涯学習館に移転する検討を、市が条例など諸条件を整理したうえで、検討を協働で開始していきます。

三点目は、エココロ 食支援から見てきた社会的孤立者と支援の実態を報告し、市長と共有しました。

1年に1度は、市長と意見交換すること、本当に意義があります。

住民と真摯に向きあって頂ける市長に感謝です。



まちづくり会議：防災円卓会議

大原地域の防災に関する団体が一同に集まり、活動を一層推進するために、これまでの大原自治振興会防災プロジェクトや各自主防災組織の取組を共有し、今後、各自主防災組織ですべき取組の方向性を探る「防災円卓会議」を10月2日、かふか生涯学習館で開催しました。

参加メンバーは各区自治防災組織（10区 1区当り3名以上）、大原自治振興会防災プロジェクト、甲賀市危機管理課、防災士連絡会、消防団の53名。

セクション1（取組紹介）

1)これまでの大原自治振興会防災プロジェクトの取組紹介

2)自主防災組織の取組紹介

大久保、櫛野、神の取組 発表

大久保は防災と福祉を融合した取組の紹介

櫛野は災害で誰一人失わないことを目標に、防災訓練の取組の紹介

神は防災マニュアルづくりによる体制と設備の整理の紹介

がありました。

3)質疑応答

セクション2（各自主防災組織でべき取組、及び、大原地域において協働でべき取組の方向性）

1)各自主防災組織に専門家が加わり意見交換

2)意見交換の内容発表 10自主防災組織

今回の円卓会議の特徴は、各自主防災組織の参加者を3名以上としたことです。これまで自主防災組織の代表は参加していただけていました。しかし、会議の内容を各自主防災組織に反映するまでには至っていませんでした。これを改善するために代表のみから3名以上としたのですが、いろんな反応が各自主防災組織で起こりそうな感じでした。



やまの健康：2021年度アクションの進捗の共有

やまの健康の円卓会議を11月2日に開催しました。

滋賀県では、住民自らが地域の周辺環境や地域に必要な暮らしの基盤等を振り返って見つめ直し、農地や森林等の維持保全の方法や、地域経済の活性化につながる地域資源などについて検討することにより、中山間地域の活性化を図ることを目的として、「やまの健康」推進事業を実施しています。

大原地域では自治振興会が主体となり、昨年度モデル地域に採択され、今年度、来年度と活動を行います。当日は4つのアクションの進捗と今後の予定の共有をしました。

- 1) やまの境界を明確にする取組
- 2) やまを見直すきっかけづくり
- 3) やまと楽しみながらつながる取組
- 4) やまの恵みを循環させる取組

円卓会議のメンバーは、コーディネーターは株式会社フォルテ森林技術経営研究所、会議メンバーは、大原自治振興会（地域環境部、若者PJ、運営委員会など）、甲賀市大原共有林財産区、甲賀木の駅運営委員会、甲賀愛林クラブ、森林組合、SATOYAMA+、立命館大学、県市の担当課です。



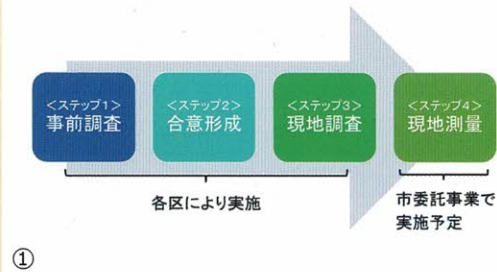
やまの健康：「やま」の境界を明確する取組

やまの健康のアクションのひとつ「やま」の境界を明確にする取組のモデル地区である櫛野、大久保の推進委員会を、11月21日に開催しました。

時代とともに「やま」と「ひと」との関わりが薄れてきた結果、自分が所有する「やま」がどこにあるかわからない「ひと」が増加しています。このままでは、「やま」の手入れが行われず荒廃する恐れがあります。地域として「やま」と「ひと」の関わりを見つめなおす様々な取組を行うなかで、「やま」の境界を明らかにする活動を行います。

当日は「やま」の境界を明確にする取組の進め方を学び、具体的に最初にとりかかる区域の選定を行いました。

境界明確化のステップ



- ① 境界明確化のステップ（取組の進め方）
- ② 大久保の推進委員の区域設定の意見交換
- ③ 櫛野の推進委員の区域設定の意見交換



まちづくり会議：見守り支え合い円卓会議

大原地域の見守り支え合いに関する団体が一同に集まり、活動を一層推進するために、これまでの大原自治振興会見守りプロジェクト、甲賀地域近所福祉推進協議会などの大原地域の見守り支え合いに関する取組の現状を共有し、今後、各区すべき取組及び大原地域として協働ですべき取組の方向性を探る「見守り支え合い円卓会議」を10月13日、かふか生涯学習館で開催しました。

参加メンバーは各区自治会（3名以上：区自治会長、民生委員、ゆうゆう倶楽部代表、サロン代表など）、甲賀市社会福祉協議会甲賀地域福祉活動センター、大原自治振興会、甲賀地域近所福祉推進協議会、拝坂見守り隊、スマイル甲賀の54名。

セクション1（取組の現状共有）

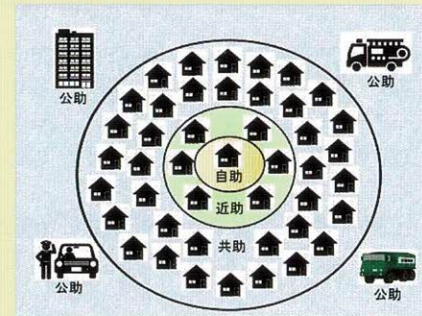
- 1) 見守り支え合いが必要な背景
- 2) 見守り支え合いの取組紹介 4団体
 - ・大原自治振興会見守りプロジェクト
 - ・甲賀地域近所福祉推進協議会（eこころステーション甲賀）
 - ・拝坂見守り隊
 - ・スマイル甲賀
- 3) 質疑応答

セクション2（今後、各区ですべき取組及び大原地域として協働ですべき取組の方向性）

- 1) 各区自治会で意見交換
- 2) 10区自治会の意見交換の内容発表

今回の円卓会議の特徴は、各区自治会の参加者を3名以上としたことです。これまでも区自治会長は参加していたていました。しかし、会議の内容を各区自治会に反映するまでに至っていませんでした。これを改善するために代表のみから3名以上としたのです。

今後は公助、共助、近助、自助の一体化が重要です。今日の意見内容を踏まえてアクションプランを考えます。



大原まちづくり勉強会：甲賀忍者と大原

運営委員会では、大原自治振興会の取組を推進するために、オープンのまちづくり勉強会を毎月第1火曜日の夜に開催しています。

甲賀市では、平成29年4月に日本遺産に認定された「甲賀流忍者」を活用した観光振興を推進し、地域経済を活性化させようとしています。そこで10月の第1火曜日の5日は、「甲賀忍者と大原」をテーマに、地域おこし協力隊 福島高仁氏を講師に迎えて、「甲賀忍者と大原」についての学びを共有し、今後、大原地域の地域振興として「忍者」をテーマに取り組めることについて意見交換をしました。

「甲賀忍者と大原」をテーマに、地域おこし協力隊 福島高仁氏の講演は、YouTubeでご覧になることができます。

YouTube 甲賀忍者と大原
<https://youtu.be/TOXr-2jcsnc>

